巻頭言

田　中　耕　治

昨年に続いて、悲しいお知らせをしなくてはならない。

本講座の前身のひとつに当たる教育課程講座の元教授で、私にとっては直接の恩師である稲葉宏雄先生が、平成18年8月21日に逝去された。享年75歳であられた。稲葉先生の思い出は尽きないが、ここでは先生のご遺徳を偲び、以下先生のご経歴やご業績を書いてみたい。

先生は、昭和29年3月京都大学教育学部を卒業、同34年3月まで同大学大学院に在籍の後、京都女子大学講師、助教授を務め、同47年4月京都大学教育学部助教授を経て、同54年3月同学部教授に任ぜられた。平成7年3月京都大学教授を停年により退職され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、平成7年から平成11年まで近畿大学生物理工学部教授、平成12年から平成15年まで龍谷大学文学部教授として、引き続き教育研究活動を続けられた。

先生は研究面においては、教育課程における「知育」や「学力」の重要性を一貫して主張され、デューイの「探究」の論理、ブルーナーの「構造」の概念とそれに基づく「学問中心教育課程」の展開を考究された。また、学力保障の観点から、「到達度評価」の理論と実践の分析に心血を注がれ、教育学・教育方法学から「教育評価」の問題に迫るという方法論を確立された。さらには、近代日本の教育学の生成と発展を厳密なテキスト・クリティークによって跡付け、とりわけ教育学における「京都学派」の確かな教育学的思惟の深化を解明された。

この間、先生は昭和63年4月から2年間教育学部長をつとめられ、4期5年にわたり評議員を歴任されるなど、学部の充実発展のみならず、京都大学全体の発展にも尽力された。また、学外においても、日本教育学会理事、日本教育方法学会理事、日本デューイ学会理事、関西教育学会会長、教育目標・評価学会代表として、教育界で解決が迫られている諸問題に精力的に取り組まれた。

私たちは、本講座を築かれた先達のご苦労に学び、さらに日々研鑽することが何よりも学恩に報いることであることをあらためて誓い、確認したいと思う。

平成19年3月

教育方法学講座教授